



リシンク

この街から、Rethinkして未来を変えていく。



街の課題を、考える。話し合う。

そこに住む方々、そこで働く方々、そしてそれを支える自治体の方々と一緒に。

それは、よりよい明日のために。

Rethinkフォーラムは、地域にゆかりのある方や、テーマにピッタリなゲストをお招きして、地域社会の課題解決に向けたディスカッションをする場。

ちょっとだけ視点を変えてみることで、違った景色が見えてくるかもしれません。

この先も、この街が魅力的で活気にあふれるように。一緒に、Rethinkしませんか？

リシンク
Rethink

視点を変えて考えること。

Rethink
PROJECT

テーマ

Rethink 福井
～観光でひらく、福井のこれから～

Rethink福井～観光でひらく、福井のこれから～(福井新聞社主催、Rethink PROJECT協賛)が7月25日、福井県庁で開かれました。北陸新幹線開業で盛り上がる福井の観光とこれからのテーマに、知事の杉本達治さん、株式会社JTB相談役の田川博己さん、一般社団法人SOE 専務理事の濱本絵里さん、日本たばこ産業株式会社(JT)福井支社長の関口宗孝さんが語り合いました。



出演者

モデレーター

杉本達治
(福井県知事)

岐阜県出身。2004年から2007年福井県総務部長、2013年から2016年にかけて福井県副知事を務める。2019年に福井県知事に就任し、現在2期目。

田川博己
(株式会社JTB 相談役)

東京都出身。1971年株式会社日本交通公社(現株式会社JTB)入社、2008年代表取締役社長就任、代表取締役会長、取締役相談役を経て、2022年から現職。

濱本絵里
(一般社団法人SOE 専務理事)

福井県出身。2000年株式会社エイチ・アイ・エス入社、海外・本社で富裕層インバウンド事業に従事。2023年にローカルDMC・一般社団法人SOEへ入職し、2024年から現職。

関口宗孝
(日本たばこ産業株式会社福井支社長)

千葉県出身。1993年日本たばこ産業株式会社入社。2020年東関東支社船橋第二支店長。2022年千葉支社副支社長。2024年から福井支社長。

加藤祐一
(株式会社福井新聞社 取締役 編集本部長 編集局長)

1987年株式会社福井新聞社入社。東京支社編集部長、経済部長、政治部長、メディア整理部長、事業局長、編集局長などをを経て2025年取締役就任、現在に至る。

テーマ01

北陸新幹線開業が、
福井にもたらした効果

【加藤】北陸新幹線の開業から今日までを振り返って、福井にどんな効果がもたらされたとお考えですか。

【杉本】開業から1年と4カ月あまりが過ぎ、福井は大きく変わったと感じています。開業による効果は具体的な数字にも表れており、来県者は開業から1年の間に2割近く増えました。これまで課題とされてきた首都圏から3割、信越地方が直通になったことにより5割増えています。さらに注目しているのは、効果が持続している点です。開業2年目に入ってから来県者が増え続け、観光地も好調。恐竜博物館は過去最高の93万人から126万人まで一気に増加し、一乗谷朝倉氏遺跡博物館、東尋坊、大本山永平寺、敦賀の赤レンガ倉庫など各地がにぎわいを見せています。また、転入者の増加率は全国1位、転出者の改善率は全国5位という結果も出ています。県民の意識も変わり、デジタル庁のウェルビーイング(幸福実感)調査では、開業前の12位から昨年4位、今年は1位まで上がりました。

【田川】首都圏では、北陸新幹線開業前から福井に関する情報が山のように増えました。特に恐竜博物館はインパクトが強く、子どもたちや若い世代の誘客に大きく貢献しているように感じます。実際にJTBのデータによると、昨年度の首都圏1都3県から福井への旅行者数は前年比56パーセント増加しており、20代から40代の若い世代のグループ旅行が増えています。また、福井への教育旅行や体験学習の関心も高まっています。福井県立大学の恐竜学部創設は、地方創生という観点からも高く評価されています。

【濱本】新幹線開業で地域に起きた変化を日々強く感じています。首都圏との時間的・心理的距離が大きく縮まり、週末でも訪問可能な旅先へと印象が変わりつつあります。滞在目的も観光だけでなくビジネスにも広がっています。私自身、福井にUターン就職したのは、新幹線の開業がきっかけです。インバウンドの面でも大きな変化を感じています。これまで金沢から京都に直行していた外国人客が、越前・鯖江(越前市、鯖江市、越前町)の伝統的なものづくりエリアに興味を持ち、最近では越前たけふ駅で途中下車し、当法人主催の産地ツアーに参加する外国人旅行者も増えていきます。これまで観光地として十分知られていなかった地域が、新幹線開通という大きな転機により、メディアを通じて認知度向上と新たな誘客の機会を切り開いてくれました。

【関口】昨年4月に福井支社に着任してから、福井駅前にかなりお店が増えたという印象です。新栄商店街には若い経営者が多く、東京のおしゃれな街のような雰囲気があります。実際にお店に行くところ、友だちの輪が広がりました。みなさん明るく親切で、おすすめの観光スポットを教えてください。県民自らがアンバサダーとして福井の魅力を広げているように感じます。



テーマ02

福井の観光ビジョンと
見えてきた課題

【加藤】杉本知事にお聞きします。観光や宿泊での取り組みが見えてきた課題について教えてください。

【杉本】新幹線開業に向けて福井の魅力の「磨き上げ」を重視してきました。まず観光地の磨き上げとして、一乗谷朝倉氏遺跡博物館の新設、恐竜博物館のリニューアル、三方五湖レインボウライン山頂公園の整備などを行いました。ブランド戦略では「恐竜」に徹底してこだわりました。福井駅周辺に25体の恐竜を配置し、「恐竜と言えば福井、福井と言えば恐竜」というイメージが定着したように思います。宿泊施設については、福井駅前にマリOTTがオープン、星野リゾートの勝山市への進出決定といったニュースに加え、民泊約120軒のリニューアルが進んでいます。結果として、観光客入り込み数2000万人突破、観光消費額1500億円突破と過去最高を記録。日本人宿泊者数の伸び率23.7パーセントは全国1位でした。一方、課題はインバウンドです。福井への外国人観光客は3倍になりましたが、宿泊者は4割増にとどまっています。福井を訪れた外国人観光客の大半が他県で宿泊している状況を改善する必要があります。今後2年間で2000人分の客室増加はすでに決まっております。さらに増やしていく計画です。

【加藤】濱本さんは越前鯖江エリアのオーブンファクトリーイベント「RENEW(リニュー)」など、地域資源を生かした体験型の観光を創出されています。同時にインバウンド誘客にも力を入れているところがありました。

【濱本】今まで様々なインバウンドプログラムに関わってきた経験から、福井という場所を海外の方にどう伝えていくべきかを考えました。ヒントを求め、県内の観光地を訪れて感じたのは、ブランドイメージの必要性です。そこで私たち(SOE)は「FENEXCRAFT FOOD(神・クラフト・フード)」を軸にブランドイメージの構築に取り組んでいます。大本山永平寺の禅文化と1500年以上の歴史を持つ伝統工芸、そして五感で味わう精進料理を融合させ、特に海外富裕層向けにプロモーションしています。

【田川】クラウドを軸にするのは、ブランドイメージの手法として正しいと思います。越前鯖江エリアは半径10キロ圏内に越前漆器、越前和紙、越前打刃物、越前筆筒、越前焼の5つの伝統工芸や、眼鏡・繊維といった2つの地場産業が集まっており、全国的に見ても稀有な場所です。ただ、宿泊施設に課題があります。私からの提案ですが、古民家を再生したアネックス型の宿泊施設と飲食店をセットにしたまちづくりが有効ではないでしょうか。また、ブランドイメージではネーミングも重要です。例えば、越前たけふ駅に「クラフトの駅」といったキャッチフレーズをつけることで特別感が生まれます。福井のクラフトを県民が使った良さを知り、それを観光客にアピールすることも大切だと考えます。

テーマ03

開業効果持続に向けて
何に取り組むべきか

【加藤】開業効果を持続させるための取り組みについて、Rethinkの観点からみなさんのご意見をお聞かせください。

【杉本】これまで、まちづくりにおいて投資が先か、にぎわいが生まれた場所に投資をするかが良いのかとよく言われましたが、新幹線開業によって先行投資の重要性を痛感しました。観光客の受け入れ態勢を整えるために交通系ICカード導入、タクシーアプリ「GO」導入などの投資を行い、それが結果として県民の利便性を高め、大変喜ばれています。さらに路線バスやタクシーの売り上げが2割近く増加するという経済効果も生まれました。また、こちらが良いと思うものを発信するだけでなく、相手の目線やニーズに合わせることも大切だと気づきました。もう一つは、行政がやってほしいことに対して民間を応援するのはなく、「官民共創で民間がやりたいことが行政にとってプラスであればその提案を受け入れ、応援していきたいと考えています。

【田川】開業効果を持続するためには立体的な取り組みが重要です。産官学の共創、観光ビジョンの再構築と優先順位付け、嶺北と嶺南それぞれの特性を生かした戦略が必要ではないでしょうか。そうした取り組みを見える化して、観光事業者だけでなく県民全体で福井を盛り上げていくんだというRethinkにつなげてほしいと思います。

【濱本】SOEでは、Rethinkならぬ「RENEW」というイベントを通して、単なるモノの販売ではなく、体験や学びといったコト消費に焦点を当てた集客に取り組んでいます。同時に、事業者が主体となつてワークショップなどを企画し、みなで盛り上げていく」という気運を高めることも目的としています。地域外への気づきづくりやアウトランディングと共に地域内への気づきづくり(インナーランドイング)を両立させる視点が、私たちが大切にしていることであり、持続可能な地域づくりには必要だと考えます。

【関口】Rethinkプロジェクトの環境である「ひろえる街が好きな運動」という清掃活動等を通して、まちの環境美化に取り組んでいます。住んでいる方はもとより、福井にお越しになった方々が気持ちよく過ごせるよう今後も様々な取り組みを継続していきます。